



大きな百合の木の下

IBARAKI UNIVERSITY NEWS LETTER



2008

SPRING 2008 No. 15

茨城大学ニューズレター

- 特集
 - ◎ 大学の広報誌
 - ◎ 大学の先生が薦める本
- 施設紹介 図書館
- 学生が語る 《自慢のゼミ・研究室》



茨城大学
Ibaraki University

現在私たちは、様々な方法で情報を受けとることができます。ラジオやテレビにはじまりインターネット、更には携帯電話のサイトなど。その媒体(メディア)は放送や通信などを中心に多種多様になってきています。さて、その中で紙を媒体とした「本・雑誌」などの役割は減ってきているのでしょうか。

今回の特集では、茨城大学の紙メディアでの情報発信や本の紹介を通して「本・雑誌」にスポットをあててみました。

特集

1 大学の広報誌

茨城大学の活動を知る方法はインターネットばかりではありません。紙メディアである広報誌によって、様々な情報は発信されています。ここでは、茨城大学の各部署で発行されている広報誌を紹介いたします。



茨城大学を知るために！ 茨城大学入学案内

DATE

発行◎学務部入学課
部数等◎年1回発行 32000部
A4版 56ページ
カラー

茨城大学の姿を一般に紹介する他、入試広報活動の一環として、入学志願者向けに配布するために発行。

主な配付先

オープンキャンパス、各種進学説明会等で配付。個人の要請にも応じています。

連絡先

学務部入学課
029-228-8064、8066

<http://www.ibaraki.ac.jp>



留學生センター ニュース

DATE

発行◎留學生センター
部数等◎年1回発行
1300部
A4版
10ページ
カラー

留學生交流や国際交流に関する特集と、その年度のセンターの事業実施報告を中心に掲載。

主な配付先 文部科学省、国立大学

連絡先 留學生センター 029-228-8593
<http://www.isc.ibaraki.ac.jp>



社会連携事業会報 茨苑(しえん)

DATE

発行◎社会連携事業会
部数等◎年3回発行
3500部A4版
約32ページ
表紙カラー・
本文モノクロ

年間を3期(4~7月、8~11月、12~3月)に分け、各々の期間に実施された社会連携活動の紹介を中心に、学生・同窓生・教員・大学外部の方などの文章によって構成。

主な配付先 事業会役員、学内、同窓会関係、学外関係者等

連絡先 社会連携事業会
<http://jigyokai.ibaraki.ac.jp> renkei@mx.ibaraki.ac.jp



大学教育センター広報誌 ローザ・ブルムラ

DATE

発行◎大学教育センター
部数等◎年2回発行 約2000部
A4版 10ページ
モノクロ

1年生を対象にしたセンターからの情報発信チャンネル誌を目指し、センターからのお知らせと教養科目に関する学生の声を掲載。ローザ・ブルムラはラテン語で「薔薇の若芽」の意味。

主な配付先 学部1年生、他大学関係機関

連絡先 大学教育センター学務課教養教育係
029-228-8416



学生就職支援センター ニュースレター なりわい・づくり

DATE

発行◎学生就職支援センター
部数等◎年1回発行
約7000~9000部
A4版 10ページ
表紙カラー・本文モノクロ

主に就職内定情報を特集。5学部から就職内定者の活動体験談や後輩へのアドバイスなど、社会人OB・OGからのメッセージ等を掲載。

主な配付先 学部1~3年生、大学院1年生、
新入生ガイダンスの際保護者へも配付

連絡先 学生就職支援センター 029-228-8797
<http://jigyokai.ibaraki.ac.jp> ✉rebkei@mx.ibaraki.ac.jp



ICAS News

DATE

発行◎地球変動適応
科学研究機関
部数等◎隔月発行
A4版 2~4ページ
カラー

茨城大学は、平成18年4月から東京大学を基幹校とする「サステナビリティ学連携研究機構」に参加し、その中で茨城大学は「地球変動適応科学研究機関 (ICAS)」を設置した。このICASの活動を学内外に知らせる広報誌。

主な配付先 ホームページで公開

連絡先 地球変動適応科学研究機関 029-228-8787
<http://www.icas@mx.ibaraki.ac.jp> ✉icas@mx.ibaraki.ac.jp



茨城大学図書館通信 階 (きざはし)

DATE

発行◎茨城大学図書館
部数等◎A4版 2ページ
カラー

茨城大学図書館報に代わって平成19年度より新刊。茨城大学の教育・研究を支える機関として、図書館が学生や教職員とともに一歩一歩高みを目指して登っていくという思いで命名。

主な配付先 ホームページで公開

連絡先 茨城大学図書館広報委員会 029-228-8551
<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/> ✉info-lib@mx.ibaraki.ac.jp



学生がつくる広報誌 C-mail

DATE

発行◎学生生活課
広報誌編集部
部数等◎年2回発行 約4500部
A5版 40ページ
カラー

茨城大学学生を対象とした広報誌。教職員と学生編集員との共同作業で作られている。毎回ユニークな特集が生まれ、その取材・執筆・編集は主に学生によって行われている手づくりの広報誌。学生スタッフも募集中!

主な配付先 全学生、取材協力者、入試関係で配付。

連絡先 学生生活課 029-228-8060



本誌 茨城大学ニュースレター 大きな百合の木の下で

DATE

発行◎PR委員会
ニュースレター編集部
部数等◎年2回発行 約12000部
A4版 12ページ
カラー

大学の研究活動、オープンキャンパス紹介、ゼミや施設の紹介など、大学の様々な活動を紹介。

主な配付先 県内外高等学校、茨城県内市町村、企業、
国立大学等へ配付。

連絡先 PR委員会ニュースレター編集部
※連絡先は本誌最終ページに掲載

これらの広報誌の他にも各学部では各々の学部の組織や教育内容を紹介するパンフレット(学部概要)が制作されている。

大学の先生が薦める本

高校生・新入生に向けて

大学を目指している高校生の皆さん、今春大学生になった新入生の皆さん、「本」には未知の、そして無限の世界がぎしりと詰まっています。あなたも大学の先生方が薦める「本」から、その新たな世界へ踏み込んでみませんか？
もちろん、在学生の皆さんも、好奇心旺盛の社会人の皆さんもこれを参考にしてください。



「人間らしさ」を回復させてくれる一冊
—— 帯木逢生『閉鎖病棟』を読む ——

■ 人文学部人文社会科学野 法学・政治学領域 講師 陶山二郎

本書は精神科の病院を舞台とした小説である。仲の良い入院患者のグループと外来に通う女学生との出会いと交流で話が進み、その後、一つの殺人事件をきっかけにストーリーが急展開する。書評子の専攻である刑事法学との関係で本来言及すべき点は数多いが、紙幅が足りないもので、以下二点のみ、言及しておきたい。

第一点は、本書のタイトルである『閉鎖病棟』についてである。本書の主人公は「解放病棟」に移っているが、「解放病棟」であっても、その実、社会からは拒絶された閉鎖病棟なのであり、文庫版巻末の「解説」でも指摘されている通り、「管理化されたわたしたちの社会全体を、象徴」しているのである。

第二点は、最近「流行」の「刑法三九条廃止論」である。精神の障害による触法行為に対して、治療ではなく刑罰を科すべきとの意見である。廃止論は二つの方向からのものがある。一つは社会防衛の立場からのもので、刑法学の「責任原理」を理解しない議論といえよう。重要なのもう一つの方向のもので、三九条が精神障害に対する差別の源になっているとの見解である。差別をなくすため、自らの障害による行為について、自らの処罰を要求するもので、

主張の背景を考えると、強い悲しみを抱かずにはおれない見解でもある。刑法学的解答を試みれば、刑法三九条により罪に問われないのは、精神の障害により是非弁別・行為制御能力を欠く場合であって、精神障害を十把一絡げに責任能力なしとしたり、逆に犯罪を犯すことが多いとするものではない（統計上も明らか）ということになるが、これだけでは心を打つ解答とはいえない。

本書の主人公は退院を決める主治医の診療のときと、殺人事件の証人として法廷に立ったときの二度にわたって、「自分のどこが病気と思う？」と問われ、答えられない。翻って、問うことの意味は異なるが、私たちは「自分のどこが健康と思う？」と問われて、説得力を持って答えられるだろうか？ 責任能力廃止論への解答は、案外、後者の問いそのものの中に含まれているのかも知れない。

『閉鎖病棟』 帯木逢生 新潮文庫
1997年580円



鉄の部屋をこわす―魯迅『呐喊』自序

■人文学部 人文社会科学野 文学哲学領域 准教授 西野由希子

私の専門は中国文学ですから、中国近代文学の代表的作家である魯迅の作品を薦めるのは当然と思われるかもしれませんが、高校生



のころ、私は自分が大学で「中国文学」を勉強し、やがてそれを研究することになるとは思ってもいませんでした。小説も詩も好きで、日本の作家、ヨーロッパの作品とかたっぱしから読んでいましたが、そのころいちばん好きだったのは清少納言で、『白氏文集』など漢詩にも通じた彼女の知性、前向きで明るい性格、定子との温かい結びつきにあこがれました。そして、文学の勉強がしたいものを読み、書き、考える人になりたい、と思つてはいたのでした。

ところが、というのも変ですが、大学に入つてはじめて第二外国語の中国語にすっかりはまりました。中国語がおもしろい。やがて少しずつ中国語で作品が読めるよつになつて、「中国文学概論」とか「中国文学演習」などの授業に出席しはじめると、そこには私のそれまで知らなかつた文学が待つていました。

「かりにだね、鉄の部屋があるとすよ。なかには、熟睡している人間がおおせいいる。」大声をあげて

数人を叩き起こしたとしてもこわすことができそうもない部屋です。起こさないほうがいいのでは、という問いかけに魯迅は答えます。「しかし、数人が起きたとすれば、その鉄の部屋をこわす希望が、絶対にはいとは言えんじゃないか———そう思い、小説『狂人日記』を書いた、と魯迅は言つのです。小説『藤野先生』には、日本留学中、「身体をなおす」医学の道から、人々の「心を変える」文学の道へと志を変える魯迅自身の姿が描かれています。

文学が人を目覚めさせ、鉄の部屋をこわす。文学が、人の心を変え、人生を変え、社会を変えたと信じる。厳しく重い文学、激しく強い作家の思いに、私自身が「目覚めさせられた」のでしようか。私は中国の文学に惹かれ、それを学ぶことを選び、そして今日まで勉強してきました。多様な文学を楽しんでいるあなたにも、心を揺さぶる作品、力のある言葉と出会つてほしい。そういう思いで、魯迅を薦めたいと思います。
『阿Q正伝・狂人日記 他(呐喊)』魯迅作 岩波文庫 560円



特集

2 大学の先生が薦める本

銀林みのる「鉄塔武蔵野線」

■教育学部情報文化課程アート文化コース 准教授 甲斐 教行

「鉄塔武蔵野線」とは、東京都西部埼玉県南部にかけて実在した送電用鉄塔の名称である。鉄塔に密かな愛を注ぐ小学5年生の「見晴」が、転校を控えた最後の夏休み、自宅周辺から1号鉄塔まで、送電線の軌跡をたどつて旅に出る……というこの物語は、それ自体卓抜な少年小説としての側面を併せ持つが、鉄塔という一見無機的にも思える対象を「男性型鉄塔」だの「女性型鉄塔」だの、

はては「料理長型」「女性騎士型」などと分類し、一基ごとに慈しみのまなざしを注ぐ主人公の無償の愛の行為は、ちょうど『白鯨』のような偉大な叙事的小説がそつであるように、「世界の記述」がそのまま芸術となりうる衝撃を私たちに知らしめた。著者自ら撮影した武蔵野線全鉄塔写真が掲載され、話題を集めた本作は、フィクションでありながら固有の土地の固有の鉄塔の存在によって裏付けられているという点で、われわれの学問分野のいくつかが、例えば私の専門である「美術史」などもまた、ひとつの「世界の記述」であることを思い出させてくれる。

本書は第6回日本ファンタジーノベル大賞受賞作であり、新潮社による単行本(1994年)、新潮文庫(1997年)と形を変えて出版さ



2007年、830円

(ソフトバンク文庫) ちなみに、映画版(長尾直樹監督、バップ、1997年)で主人公「見晴」を演じた少年は、のちにTV版「電車男」で一躍有名になった伊藤淳史である。

茨城大学教育学部が推薦する五百冊の本

教育学部情報文化教室 准教授 林 延哉

新入生を迎える四月公開を目指して教育学部では今「教育学部が薦める五百冊」（仮称）を作成しています。茨城大学教育学部が学生の皆さんに在学中に読んでもらいたいと考えている本を、簡単な一言を添えて紹介するブックリストです。

教育学部は、小学校や特別支援学校、幼稚園等の教員、中学・高校で様々な教科を教える教員、養護教諭そして教職以外の進路を目指す数多くの学生も学ぶ、総合的な学部です。そのため「お薦めの本」も多岐に涉り、結局五百冊を数えることになりました。

教育学部全学生向けの本から各選修・コース・課程別向けの本まで、幾つかの力テゴリーに分類されているのですが、リストを眺めていくだけでも、茨城大学教育学部ではどんなことを学ぶのか、どんな教員が居るのかをうかがい知ることが出来るリストになっています。かく言う僕も、「教育学部が薦める五百冊」の編集を担当しているのですが、自分の所属する情報文化課程以外の課程の専門のことはよく知りません。それぞれの課程・コース・選修から寄せられてくる「お薦めの本」のリストを眺めながら、「ああこの選修で

はこんなことを学んだな」「このコースではこういう考えを必要とするのだな」とあらためて知ることができました。四月には教育学部のホームページから閲覧できるようにいたしますので、教育学部以外の方も是非ご覧下さい。そして、面白そうだなと感じる本があったら、是非「現物」を手にとってみてください。

さてこの特集は「先生が薦めるこの一冊」ですが、すでに五百冊も紹介したので、五百人分の役目を僕は果たした訳です（人のふんどしで相撲を取った感もあります）。今更このうえ屋上屋を架すこともないでしょう、許された字数も残りすくないので、僕のお薦めの一冊は、またいずれ後日ということで、四月には是非「教育学部の薦める五百冊」をご覧ください。



高校生・新入生に向けて

紹介したい本は、 小室直樹「数学嫌いな人のための数学」

（東洋経済新潮社、2001）です。

理学部・理学野・数学領域 教授 大嶋 秀明

著者は、大学の数学科を卒業後、経済学、法学政治学の大学院を相次いで修了し、渡米して研究活動を行ったという経歴の持ち主で、現在は評論・著述に従事しています。この経歴からも伺えるように、著者は生粋の数学研究者ではありませんし、数学最先端の話題を紹介してはいません。そうだからといって数学好きな人にとつて見るべきものを含まな

⑥なぜ隣国の人々は日本が嫌いか。などなど、その他「本当か？」と首を傾げるか、「なるほど」と目からウロコが落ちる、かもしれない話題が並んでいます。これら幾つかについては別の著書の中で詳しく論じていますが、この本でそのエッセンスを読んで、もつと知りたくなつたら個別の本をみると満足できるかもしれません。

という点ではありません。数学を好きな人はどう役に立つのかをとかく真面目に考えないし、嫌いな人は役に立たないと信じがちです。著者は自身が経験し納得した数学の効用やおもしろさを真剣に伝えようとしています。すなわち、数学が好きか嫌いに関係なく、多くの人が興味を持てる題材をうまく選んでいます。例をあげると、

まずは本の前文「はじめに」に目を通し、面白そうと思つたら目次を見て、項目名から判断して気の向くまま拾い読み、面倒と感じたら斜め読みをするのがお勧めです。特に数式にアレルギーの人は、そういう箇所は飛ばし読み、という具合に気楽に読むとよいでしょう。

- ① 数学はなぜこれほど厳密なのか。原因はユダヤの神に関係ある。
- ② ソビエトの崩壊は政府が必要条件・十分条件の違いを理解していなかったからである。
- ③ 数学の論理から資本主義は育つた。
- ④ 経済学を理解するには方程式と恒等式の違いがわかればよい。
- ⑤ 古代中国の論理とギリシャの論理は異なる。



『高熱隧道』と『黒部の太陽』、 そして『黒部の太陽〜ミフネと裕次郎〜』

■茨城大学工学部都市システム工学科
地球変動適応科学研究機関(兼務) 准教授 小峯 秀雄

僕は「土木技術者」です。マスコミは、「土木」をあまり良いイメージで伝えてくれません。しかし、「土木」は国土を築き、過去から現在の社会を構築し、未来の都市を創造するための技術です。「土木」は自分の身体よりも大きく壮大で、文化遺産にもある構造物を築造しますので、実際の巨大プロジェクトに係わった者にしか感じられない「壮大な口マ」があります。

ここに推薦する三冊の図書を読んでいただければ、実際のプロジェクトに係わったかのような「素晴らしい感動」を味わえます。自然の驚異を感じつつ、神と対峙する土木工学の厳しさや、それを克服したときの「技術者の誇り」に必ずや感涙することでしょう。

「高熱隧道」は、第二次世界大戦を目前にした時代、黒部第三発電所建設のために、一六〇℃にもなる岩盤のトンネル掘削に立ち向かった土木技術者の死闘を描いています。熱死の危険もある一六〇℃の岩盤に奇想天外な方法でダイナマイトを装填しトンネルを掘りあげます。

「黒部の太陽」と「黒部の太陽〜ミフネと裕次郎〜」は、石原裕次郎(有名な大俳優です。ご両親に聞い



『高熱隧道』吉村昭(著) 新潮文庫
『黒部の太陽』木本正次(著) 信濃毎日新聞社
『黒部の太陽〜ミフネと裕次郎〜』熊井啓(著) 新潮社

てみて)主演の同名映画も製作されています。残念ながら、石原プロの意向によりビデオやDVDは製作されていませんので、図書で読む以外に知るこの出来ない貴重なドラマです。関西電力・黒部第四ダム建設のためのアクセストンネル(大町トンネル)掘削の難工事の物語です。昭和三十〜四十年代の高度成長期、逼迫した電力事情を一気に解決するべく、土木技術者が、日本のため、家族のため、子供たちのためを合言葉に、神が与える自然の試練に立ち向かいながら、一大プロジェクトを成し遂げます。この三冊のいずれかを読み終えたとき、あなたは土木の虜になり、愛すべき恋人や家族を守るという人間としての誇りと尊敬を、きつと感じることでしょう。

特集2 大学の先生が薦める本

生きものへのまなざし―の二冊

■農学部生物生産科学 動物生産科学 教授 松澤 安夫

ある昼下がり、研究室のひとりの女子学生(院生)が控えめながらも、きつぱりとした調子で「お勧めします」と一冊の本を差し出した。怠け者の先生にもっと勉強するようにと学生がハツパをかけてくれたのである。数ページ読んで、すぐに生協に注文した「動物感覚 アニマル・マインドを読み解く」(NHK出版)というその本は私に少なからず衝撃を与えてくれた。著者のテンプル・グランディン(コロラド大学准教授)は自ら自閉症であることを冒頭で述べている。自閉症なるがゆえの驚嘆すべき能力(カレンダーの曜日や素数の瞬時の暗算、一度見た風景のまは演奏など)過日のNHKテレビでもシリーズで放映され、グランディン自身も登場していた)が知られているが、彼女の場合とはりわけ動物の心理や感覚を直感的に理解する能力に優れ、その能力(と、もちろん深い学識と)に基づいた動物の知覚世界についての斬新な知見が次々と語られている。自らの体験を通しての「動物はサヴァン自閉症の人に似ている、それどころか動物はサヴァン自閉症だとさえいえるのではないだろうか」「動物は人間が見ない

細部を徹底的に見る」といった指摘は応用動物行動学に携わる私にとつて刺激的であった。本書はやや分厚く(参考文献を除いて443ページ)、またグランディンは動物福祉を考慮した牛の拘束装置として北米の食肉処理場(屠畜場)で広く採用されているシステムを開発した実業家でもあり、「ほのほの動物もの」の本ではないことをお断りしておきたい。そこでもう一冊、もっと薄くて楽しく読める本をご紹介します。「生物学個人授業」(新潮社、文庫本である。発生物理学の世界的権威、岡田節人さんが先生で、イラストレーター「理解が遅い才能」を自認する南伸坊さんが生徒。なぜ全身の細胞にご丁寧にするすべての遺伝子が揃っているのか、といった素朴な疑問から、遺伝子治療の是非、恐竜復活の可否といった今日的関心事までが縦横無尽に自由闊達な語り口で展開され、伸坊さんの天衣無縫の発想に岡田先生もしばしば目から鱗の思いをされる。薄いが歯ごたえ十分な一冊である。



『動物感覚』松澤安夫(著) 新潮社
『生物学個人授業』岡田節人(著) 新潮社

●人文学部人文コミュニケーション学科
感情・健康心理学ゼミ

宮崎研究室



現在、私たちのゼミには3年生6名、4年生6名、院生1名の計13名が所属しています。このゼミは宮崎章夫先生の指導の下で、さまざまな立場にある人の感情やストレス、お年寄りとその存在を支える人々の健康について研究をしています。感情や健康といえば、心理学を学んだことのない人にも非常に身近な事柄だと思います。ゼミに所属している学生は、各自が関心のある事柄を研究のテーマに設定し、日夜その内容を深めています。実際に私たちが研究しているテーマをいくつか挙げると、「筆記によるストレスの緩和効果」「ヒューマンサービスマスの職場ストレス」「高齢者のボランティア活動とQOL」といったものがあり、研究の方法も研究室での実験から現場でのインタビューまで多岐にわたります。ゼミは学年ごとに行われ、先生からの指導だけではなく、学生同士で意見を出し合うことで互いの研究を深めていきます。他の学生の研究へ積極的に発言する機会があり、自分の扱うテーマだけではなく、他のテーマについての知識も深めることができます。

人文学部
人文学科4年
坂下 英淑



彫刻ゼミは、島先生の指導のもと、院生5名、院生1名の計6名が日々彫刻の表現研究に勤めています。彫刻的な「造形」とは、四角いフォルム・組み立て・構造・螺旋の力などを考える

から、内部生命の表出を目指すものです。実際には美材を用いる表現のため苦労が多いのですが、土・石・木・鉄など様々な「素材」を普段から扱うことが出来ます。また、彫刻は高い「労働性」ともなない、皆で協力するという「協働性」を学ぶ場でもあります。私たちは、これら彫刻が成立するための「造形」「素材」「労働・協働性」という三条件について日々から研究を重ね、それらが統合された立派な彫刻を作り上げることが目標にしています。

毎週あるゼミの後には「食育の会」を開いており、皆が料理の腕をふるい語り合っています。また、皆で展覧会に出かけることも多く、長期休暇には美術館見学旅行に行ったりします。意気わいわいと活気があり、楽しく活動しています。

教育学部美術選修

3年 畑岡 佑輔

●教育学部学校教育教員養成課程
美術選修

彫刻ゼミ島研究室

●教育学部学校教育教員養成課程
技術選修

木材加工研究室

私たちの研究室は、若くともパワフルな大谷忠先生の指導の下、三年生四人、四年生四人が在籍しています。週一回のゼミでは、木材の加工や教育に関する事について、みんなが納得するまで話し合っています。討論が活発すぎて、予定時間にゼミが終わらないこともしばしばあります。また、何かの折には全員で飲み会をしたりと、先生と三年生、四年生との交流がとても盛んな研究室だと思っています。

現在の中学校の技術教育では、木材加工によるものづくりが主として行われています。このものづくりでは、ものをつくるスキルが重視されており、科学的な思考を養うことはあまりありません。本研究室では、木材を加工する教育における科学的な思考の育成や、地球環境に与える負荷が小さい材料としての木材の利用に関する研究を行っています。また、木材自体の加工について、ミクロな視点から見る研究も行っています。

教育学部技術選修4年 腰塚 実穂



(3年生の木材加工実習の様子)



私たちにとって植物は身近な存在です。穀物野菜、くだものは植物の一部ですし、庭で栽培したり、野山で花を見て楽しむことも多いでしょう。そんな植物ですが、普段の生活の中で、その形や体のつくり方に注意を払うことはほとんどありません。しかし、驚くほど多様でかつ巧妙です。そしてこれらからは長い時間をかけて植物たちが身に付けてきた様々な知恵を知ることが出来ます。

私たちの研究室では、植物の分類体系や、形や構造の進化について学びながら、野外調査と栽培実験、そして実験室での解析（構造解析や遺伝子の解析）を組み合わせ、植物がどのように多様なのかを明らかにする研究を行っています。私はスミレの仲間の種子構造の多様性を解析していますし、それぞれ学生ごとに研究対象は異なっています。毎週のゼミでの意見交換を通して、それぞれに多様な植物の世界を垣間見えています。

理工学研究科地球環境科学専攻
博士前期課程 2年 熊澤 成晃

●理学部生物科学コース

遠藤泰彦研究室

●理学部理学科
物性実験グループ

西原美一研究室



理工学研究科自然機能科学専攻
博士前期課程2年 上野 貴也

我々の身の回りは様々な性質を持つ物質であふれています。電気を通しやすかったり、逆に通しにくかったり、磁石にくっついたり反発したりする物質もありますが、このような現象には「電子の振る舞い」が深く関わっているのです。私たちの研究室では、その電子は物質中で一体どのように振る舞い、それによってどのような性質を与えてくれるのかを、実験を通して調べています。調べる物質の多くは自分で作製します。自分で作った物質が面白い結果を示せば、とても感動することも実験の魅力の一つです。

そんな好奇心のかたまりのようなメンバーで構成される我が研究室は、毎週お茶会のような和やかな雰囲気の中で実験成果の報告会をしたり、飲み会や旅行などのイベントも開いたり、真剣さこノリのよさこのギャップがたまりません。

●工学部メディア通信工学科
場と情報研究室



私たちが情報研究室では赤羽秀郎准教授、山田光宏講師の指導の下、主に「1/fゆらぎ」についての研究を行っています。

「1/fゆらぎ」とは聞き慣れない言葉かもしれませんが、木漏れ日や小川のせせらぎ、そよ風など様々な自然現象の中に含まれるゆらぎであり、人に快適感を与えると言われています。私たちはこの「1/fゆらぎ」について詳しく調べるため、実験やシミュレーションを用いた解析を行います。さらには工学的な応用を目指した照明やアニメーションなどの製作にも力を入れています。

研究室には修士・学部生を含めて学生9人が在籍し、2つの研究室に分かれて研究に取り組んでいます。研究以外にも互いの親睦を深めるため、飲み会などが行われます。どこかのんびりした空気が漂っていますが、やるときはやるメリハリのある楽しい研究室です。興味のある方は一度見学にいらしてください。

理工学研究科メディア通信工学専攻
博士前期課程1年 三輪 謹仁

●工学部生体分子工学科

小野高明研究室



理工学研究科物質工学専攻
修士1年 和泉 寿範

私達の研究室は一昨年に入スタートしたばかりのまだ真新しい研究室です。小野高明教授のもと修士、学部生6名が在籍しています。生物と光の係わり合いについて研究しており、特に光合成反応で酸素が発生するメカニズムの解明を主要な研究テーマとしています。

光合成は全ての生命活動の基となる反応で、私達が生存する為にはどうしても欠かす事ができないものです。私達の研究室では光合成を行うバクテリアが大量に培養されているかと思えば、実験試料を調製するため、超遠心機が唸りをあげています。また電子スピン共鳴装置やフーリエ変換赤外分光装置などが所狭しと並べられています。私たちは、そんな中に机を置き、これらに囲まれるようにして日々研究を行っています。

研究室は和やかな雰囲気です。宴会などの催し物もあります。是非一度見学に来てください。

●農学部地域環境科学科
農地環境工学研究室



農地環境工学研究室では、土壌中の粘土の性質や土の撥水性について、また不耕起水田・冬期湛水田の土壌の性質や農村の活性化を目的とした都市農村交流について研究を行っています。

私にはスリランカからの留学生（連合大学院）と一緒に、土の撥水性について研究をしています。研究するにつれて新しい興味が増えてくるので、やりがいを感じます。夏には今年までの研究成果を学会（島根大学）で発表してきました。

研究室では歓迎会や忘年会をしたり、毎年春には地域環境工学関連の研究室合同でお花見をしたりします。私は、研究しながら留学生の先輩に英語を教わって、研究室で国際交流も楽しんでいます。

農学研究科地域環境科学専攻
修士課程1年 吉田綾

茨城大学図書館は本館・工学部分館・農学部分館の3館からなっており、学生・教職員の学習・研究活動を支援しています。

◆蔵書冊数 974,534冊(平成19年3月31日現在)

◆開館時間(夏季等の休業期間)

	月～金曜日	土曜日	日曜日	お問い合わせ
本 館	9:00～21:00 (9:00～17:00)	9:30～17:30 (休 館)		情報サービス係 029-228-8076
工学部分館	8:50～20:50 (8:50～17:00)	10:20～18:50 (8～9月 13:20～16:50)	休 館	工学部図書係 0294-38-5012
農学部分館	8:30～20:30 (8:30～17:00)	12:00～18:00 (休 館)		農学部図書係 029-888-8531

◆サービス・施設利用(本館)

内 容	月～金曜日	土・日曜日
館内閲覧・館外貸出	開館時間中	
レファレンス	9:00～18:00	休 止
コピー(セルフ式)	開館時間中	
相互利用(ILL)	9:00～18:00	休 止
共同学習室	開館時間中	
IT基盤センター教育用パソコン		

◆貸出条件

	冊 数	期 間
学部1～3年生	5冊	14日間
学部4年生	10冊	28日間
大学院生	15冊	28日間

学外の方への貸出も行っています
詳細はホームページをご覧ください
<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/>

☒ ガイダンス



新入生利用ガイダンスのほか、文献探索講習会を実施しています。

☒ 学生用パソコン



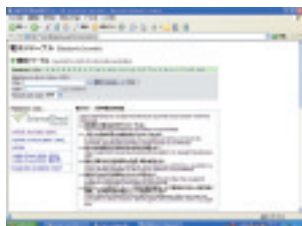
21時まで使える学生用パソコンを約30台用意しています。

☒ 地域連携



地域の古文書を整理、保管し郷土史を勉強する方に公開しています。

☒ 電子ジャーナル



オンライン版の学術雑誌をホームページで提供しています。

☒ リポジトリ



本学の教育・研究成果を保存しネット上で広く公開しています。

☒ デジタル広報誌



図書館通信「階(きざはし)」をホームページで公開しています。



ISCIU3(第3回茨城大学国際学生会議)が 平成19年10月6日(土)~7日(日)に 茨城大学水戸キャンパス理学部棟 インタビュースタジオ他で開催されました。

ISCIU3ではテーマを Toward Sustainability Science for Global Safety and Security とし、開催しました。「Sustainability (持続性)」というこれからの地球環境を考える上で重要なキーワードを ISCIU3 の会議テーマとして世界中の学生から研究論文を募りました。そして7つのトピックスに対して合計 55 件の論文が集まりました。なかでも ISCIU3 に参加した海外学生の国籍は中国、スリランカ、ブラジル、イラン、フィジー、バングラデシュ、パラグアイ、セネガル、アメリカ……と世界各地の学生達が参加してくれました。また国内からは茨城大学の他に東京農工大学、大阪大学、京都大学、山口大学、福岡大学など全国から参加してくれました。さらに「Sustainability (持続性)」をテーマとして 2007 年のノーベル賞を受賞した IPCC (気候変動に関する政府間パネル) メンバーでもある John E. Hay 教授 (ワイカト大学、NZ)、Patrick D. Nunn 教授 (南太平洋大学、フィジー) の 2 名、またバングラデシュから Mahbub Mostofa 教授 (バングラデシュ農業大学) が来日され、特別講演をして頂きました。3 名とも現在の地球環境、これからの地球環境課題等をご自身の体験や研究を通して、とても分かりやすく、面白く講演して頂き、非常に貴重な 3 講演となりました。

学生達の発表は、理学部棟内に用意された 3 つの会場に分かれて行われました。初日には新聞社が取材に訪れ、翌日の新聞に大きく掲載されるなど、大学外の多くの人からもこの ISCIU3 への関心、期待の高さが伺えました。そして学生達は

- 1.Sustainability of local and global environments
- 2.Living sphere plan and policy
- 3.Cultural structure
- 4.Mitigation and adaptation of natural
- 5.Advanced information technology, global security, and safety
- 6.Innovative materials for global security and safety
- 7.Sustainable agriculture

の 7 つのトピックスに分かれてそれぞれの研究成果等を英語で 10 分間発表しました。発表では多くの質問が飛び交い、発表した学生はそれぞれ貴重な体験を得たようでした。日本人の学生は英語での発表・質問に四苦八苦しながらも何とか自分の研究を伝えようと、海外から来た学生はそんな日本人学生をサポートしてくれ、研究内容にも大変興味を持ってきていました。さらには大学、国籍を越えて多くの学生達が様々な話題の会話を楽しみ、学外・国際交流という面でも大いに貢献した会議となったのではないのでしょうか。

次回 ISCIU4 (第4回茨城大学国際学生会議) は、ロボティクスとメカトロニクスを中心とした、学生による学生のための国際会議で、平成 20 年 10 月頃を予定しています。内容は、福祉医療ロボット、移動ロボット、マイクロ・ナノシステム、生物システム、生体システムなど、興味深く面白いテーマを募集しています。皆さん是非参加してみませんか。



John E. Hay 教授



海外学生の発表



ISCIU3 学生実行委員メンバー

茨城大学からのお知らせ

茨城大学五浦美術文化研究所と出版物

五浦美術文化研究所は、東京美術学校（現東京芸術大学）や日本美術院の創設者として知られている岡倉天心（寛三、一八六二—一九一三）の旧居宅を管理運営する組織です。一般には六角堂という名称で知られているでしょう。明治三十六年この地に居を構えた天心は、明治三十八年に四人の愛弟子、横山大観、下村観山、菱田春草、木村武山を呼び寄せ、日本画の近代化を目指しました。研究所の敷地内には長屋門、天心旧邸が残り、前庭先の太平洋に突き出した岩の上には六角堂が往時の面影を留めています。歴史的景観として登録文化財に認定されているこれらの建物のほか、展示室「天心記念館」には、年間約10万人の入場者があります。

それらの収益の一部や日本美術院からの寄付金を活用して、当研究所は日本の近代美術や内外の文化・歴史の研究を行い、『五浦論叢』とその別冊『五浦美術叢書』、『五浦歴史叢書』、『五浦文学叢書』を発行しています。『岡倉天心と五浦』、『茨城の明治維新』、『茨城の文学鑑賞』、『都市の中の湖 千波湖物語』など学術書から一



般書まで、幅広い内容で地域の歴史文化の普及に貢献しています。なかには、『茨城彫刻史研究』などのように、全国的な専門誌に関東地方の彫刻特集を企画させるほど話題を呼んだ本もありました。



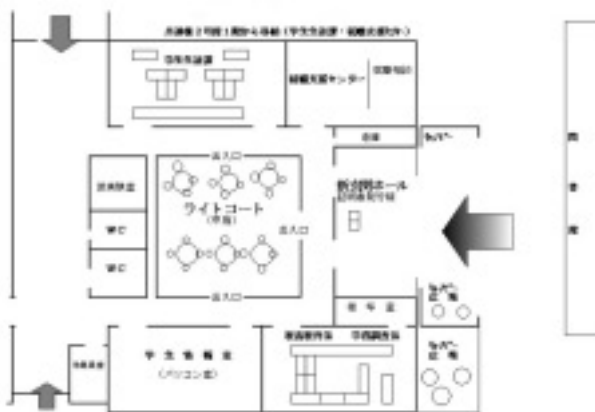
【開館時間】 午前9時30分～午後5時（入場は午後4時30分まで）
※11月～3月は午後4時30分（入場は午後4時まで）
【休館日】 毎週月曜日・年末年始（月曜日が祝日の場合はその翌日）
【住所】 北茨城市大津町五浦727の2
【交通】 JR常磐線大津駅下車 バスで約5km
常磐自動車道 北茨城インターチェンジより約12km

『学生センター』が整備されました！

共通教育棟2号館1階に設置されていた、学生生活課、学生就職支援センターが共通教育棟1号館1階に移転しワンストップ化が実現しました。名称は「学生センター（Student Center）」に決定し、新しく図書館側に玄関が設置されました。新玄関には大きなキャノピー（庇）が設置され、学生の皆さんがキャノピーの下でくつろぐこともできます。また、学生センター1階中庭には「ライントコート」が整備されました。このライントコート



学生センター案内図
(共通教育棟1号館1階)



は学生の憩いの広場としてテーブルや椅子が設置され、学生センターでの諸手続等の際にも利用することができ、自由にご利用して下さい。証明書自動発行機も学生センター玄関内に移動し、より機能的になりました。学生控室も「学生情報室」としてより広く利用できるようになり、今後は学生相談室、履修相談室等を整備していく予定です。

編集後記

「若者の活字離れ」は既に言い尽くされ、古語になった感もあるかと思われまふ。一方、携帯電話のメール機能の使用頻度は激しく、メール依存症を感じる事もあります。そのメールの中には絵文字を含め、しっかりと「活字」が存在しています。

今回の特集はその「活字」の原点でもある紙メディアである「本・雑誌」を取りあげました。新年度を継起に新たな気持ちで、「読書」に向かい合うのはいかがでしょうか。

